



知的障害者のすまい
～さまざまな可能性と建築家の取り組み～



セミナー趣意書

ゆう建築設計では、7年前から継続して知的障害者のすまいを設計してきました。その間、新たな計画に出会う度に宿泊調査、スタッフ打合せ、社内議論を重ね、取り組む分野を拡げてきました。その実践の中でわかってきたことは、こうすれば正解というものがないということでした。住まう人、利用する人の状態が個別様々である一方で、在宅でないすまいを計画する場合は利用者を事前に特定できません。計画を進める為にはある種の利用者像、生活像を想定しながら判断を重ね、仕様を決定していくことになります。

以上のような経過から、本セミナーでは副題を～さまざまな可能性と建築家の取り組み～としました。セミナーは5部構成とし、第1部から第4部までは設計者がそれぞれの立場と想いで福祉に携わる事業者、スタッフ、利用者と向き合い、考えたことを整理して発表します。福祉が利用者の生活全体、24時間365日を対象としているように、建築も利用者の生活の枠組みをつくり、24時間365日生活の質に関わっているという想いがあります。私どもが建築の立場から提案した内容が実際に使われ始めてからどうだったかも併せてお伝えします。第5部では、一步踏み込んで在宅の方に対して建築で何ができるのか考えたことを提案します。在宅の方を対象に含めることで、あらゆる状況の方に建築でできることを考えて提供していきたいという想いからです。

これまで、建築の世界では知的障害者のすまいが病院や高齢者のすまいのように表立って取り上げられたことはありませんでした。今回のセミナーは、『知的障害者のすまい』を正面から取り上げます。設計者の取り組みを通して建築の可能性を知って頂くことで、日本の知的障害者のすまいを変えていくお手伝いが出来ればと思い、セミナーを企画致します。

平成28年6月
株式会社 ゆう建築設計事務所

知的障害者のすまい

～さまざまな可能性と

建築家の取り組み～

主催：株式会社ゆう建築設計事務所

日時：平成 28 年 10 月上旬開催

会場：東京・大阪

第一部	地域の中で暮らすということー設計者からのアプローチー ～よさのうみ福祉会 菜の花ホーム カフェ・ショップ花鈴～ ほっとするホームとは？ー心地よい住まいの探求 地域をつなぐコミュニティカフェ&ショップ	河井 美希
第二部	30 年前の建物を現在の生活に合わせて増改築 ～丹後大宮福祉会 あゆみが丘学園～ 利用者の日常生活と居場所について考えたこと 増改築後の生活、暮らし方の変化～8 ヶ月後～	清水 大輔
第三部	強度行動障害を持つ方のためのすまいづくり ～福知山学園 むとべ翠光園～ 多様性のある障害者の方への環境づくりで目指したこと 設計者の考える、「建築的支援」とは	岩崎 直子
第四部	知的障害者のすまいの基本ディテールと工夫 居室、廊下、リビングの基本ディテール トイレ、食堂、浴室、個別対応の工夫	竹之内 啓孝
第五部	知的障害者の在宅生活 知的障害者の在宅生活 重度心身障害者のすまい 高齢知的障害者のすまい	山本 晋輔

お問い合わせ・お申込み先

株式会社ゆう建築設計事務所 京都本社

京都市中京区堀川通錦小路上ル四坊堀川町 617 番地

URL : <http://www.eusekkei.co.jp/>

TEL : 075-801-0022

FAX : 075-801-8290

E-mail : office@eusekkei.co.jp

社会福祉法人 よさのうみ福祉会

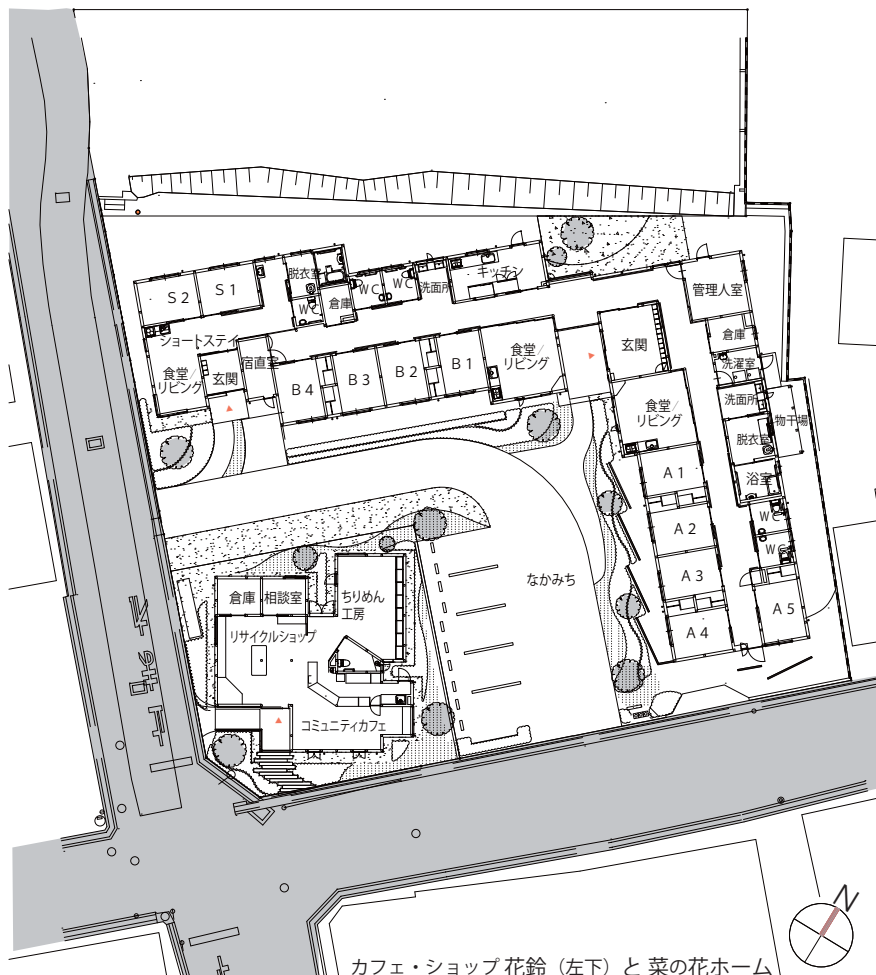
菜の花ホーム

カフェ・ショップ 花鈴

今年の5月、京都府与謝野町の岩滝という町に重い障害を持った方が安心して暮らすためのホームが完成しました。ここでは9名の方が新しい環境の中で新たな人間関係を築いてゆきます。できるだけ静かな日常を送ることができるように4名と5名の2つの生活ゾーンに分けています。また、ホームとは緩やかに仕切られた空間にショートステイが2名分確保されました。

そしてこのホームの隣には特産のちりめんをはじめとした着物のリサイクルショップが建てられました。ショップにはカフェと着物のハギレを使った小物づくりを行う工房が併設されて、だれでも利用することが出来ます。この「カフェ・ショップ 花鈴」は地域の交流の場としての役割の他に、障害のある方の働く場でもあります。ホームと町の距離を近づける新たな試みです。

この度のセミナーでは、建物の完成に至るまでに繰り返し考え続けていた「ほっとするホームとは何か」という単純な問いにどのように答えを探し見出してきたか、そして、地域の中に建つホームとしてのふさわしい佇まいとはどんな建築であるべきか、設計者の試行錯誤を交えて紹介します。



カフェ・ショップ 花鈴



個室のドア



玄関ホール

社会福祉法人 丹後大宮福祉会 あゆみが丘学園

昨年9月、開園以来約30年を経過した障害者入所支援施設（定員60名）の増改築工事が完成しました。制度上は通過施設という位置付けの一方で、約半数の方が長期間入所されています。30年前に施設として計画された空間と、現在営まれている『生活の場』としての用途があっていない現状があり、その改善を強く望まれていたことが計画の出発点でした。

この度のセミナーでは、30年前の基準（4人部屋等）で建てられた施設を宿泊調査やスタッフ打合せを重ねる中で改修でできること、できないことを整理しながら『生活の場』としてどう作り変えてきたかについて、設計事務所の視点でお話しします。

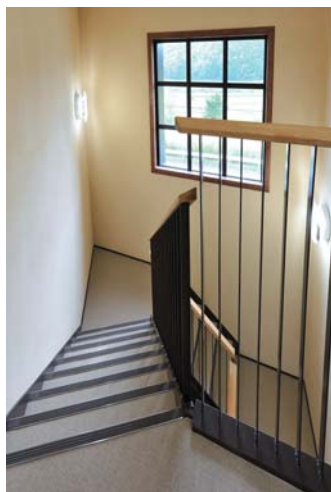
前半では全室個室化が希望ではあるけれど敷地形状の制約等で2人部屋を残さざるを得ない状況があり、2人部屋をどのように改修したのかや、増改築で全体の面積が大きくなる中で入居者の居場所をどのように考えたかなど、計画段階で考えたことを、後半では増改築後の生活が始まり実際に使われていく中で、8ヶ月が経過した時点での入居者の生活の変化を中心にお話します。



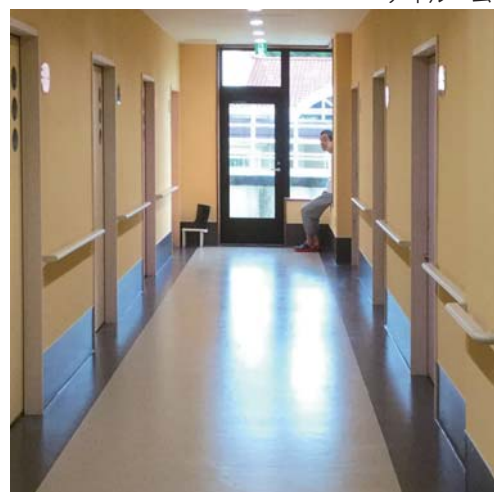
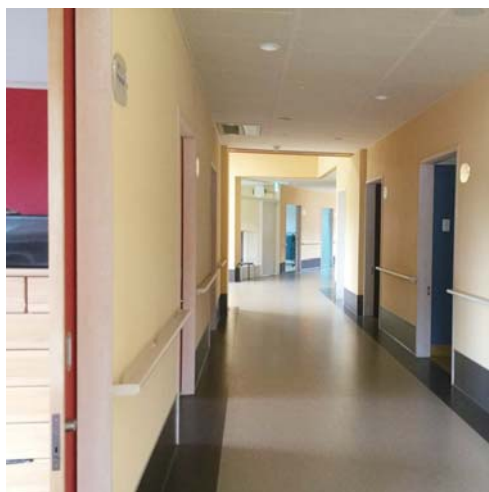
現在の生活に合わせ生まれ変わった外観



デイルーム



階段



談話コーナー



廊下



様々な居場所と居室



ゆう建築設計では、むとべ翠光園の設計に取り組むにあたって、2008年、その前身である「旧第一翠光園」の泊り込み調査を行いました。その調査で旧第一翠光園のご利用者を見守り、事業者・職員の皆様とともに知的障がい児・者の方の住まいを考えてきました。

そして2014年、福知山市に京都府北部唯一の障がい児・者併設型支援施設として「むとべ翠光園」が誕生しました。

むとべ翠光園では入所施設のほか、デイサービスや児童発達支援センターも併設しています。それぞれの事業所が同一建物の中で、独立しながらも共存できる建築的解決を試みています。

社会福祉法人福知山学園 むとべ翠光園

開設してから、今年で2年が経ちました。

ご利用者の方の入居後の使われ方調査をして、設計時に意図したこと、また意図しなかったこと、いろいろなことがわかりました。

建築で対応できること、運営で対応できること。

ご利用者の方の住まいかたの変化。

様々な取り組み・工夫をゆう設計では見つめ続けています。



中庭に面した支援ユニット



娯楽室：床座でも居心地のよい空間・素材選び



床材のはりわけや椅子で複数の居場所を設けた児童のユニット



ご利用者の行動から考えた窓・水洗いできる部屋



強度行動障がい特別支援ユニットの「いろいろ工房」

社会福祉法人福知山学園
児童発達支援センター

すきっぷ



社会福祉法人福知山学園
障がい者デイサービス

むとべ

むとべ翠光園の3階のフロアでは、
感覚統合や専門的な支援・療育を受けるこ
とができる設備・環境を整えています。
1・2階の居住エリアとは独立した建築計
画となっており、来所される方がスムーズ
に訪れることができるようになっています。

社会福祉法人福知山学園 グループホーム 奏・響

社会福祉法人福知山学園 むとべ翠光園から徒歩圏に位置する、重度知的障がい者の方のためのグループホームで
す。2013年開設当時、京都府北部初の重度対応型グループホームとして「地域に住む」ことを目指しました。
木造平屋建ての7人定員のホーム2棟は中庭を囲むように配置されており、中央に地域生活支援センター「シ
ンフォニー」を併設しています。



知的障害者のすまいの基本ディテールと工夫

(1) はじめに

知的障害者のすまいの基本ディテールと工夫として、居室、廊下、リビングの基本ディテールとトイレ、食堂、浴室、個別対応の工夫を紹介します。

（２）居室、廊下、リビングの基本ディテール

1) 床

- ・失便及び便遊び等への水洗いに対応した居室
- ・廊下に座れる床材の選定（コルク・カーペット）
- ・転倒及び車椅子への対応

2) 壁

- ・かたい壁、やわらい壁
- ・クロスなどの仕上材料による損傷のし易さの違い
- ・壁につくスイッチ等の設備に対する乱用と損傷への対応

3) 天井

- ・天井に付く設備へのこだわりへの対応
- ・水遊びに対する天井照明への対応

4) 察

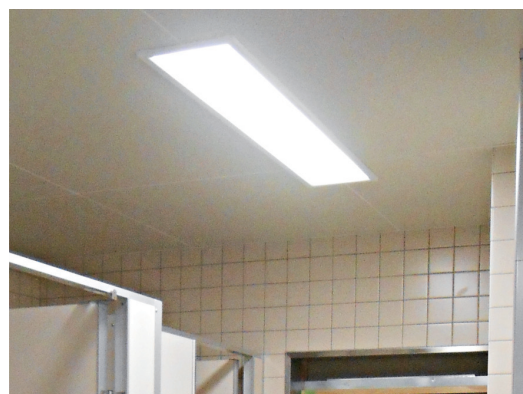
- ・ 外部からの刺激に対する視覚制御
- ・ 割れない窓
- ・ 自然の風の取り方

5) 建具

- ・引き戸の指詰め対策
- ・建具を叩いたり蹴ったりすることで起きる扉の破損への対応
- ・仮に建具が外れた場合の事故への対応
- ・利用者の体当たりにより建具が外れることへの対応
- ・建具の吊元の緩み防止
- ・鍵及び鍵受け部分の破損への対応



水洗いに対応した居室



防水型照明

[illegible]

建具検討資料



改修後居室建具



建具強度確認

(3) トイレ、食堂、浴室、個別対応の工夫

1) トイレ

- ・失便処理装置
- ・居室内のポータブル水洗トイレ対応
- ・居室内トイレへのリフト対応
- ・尿等によるにおいに対する仕上材の選定
- ・ヒーター一体型天井照明

2) 食堂

- ・水中毒者への水栓の対応
- ・食事テーブルの形と見守り及び食事介助の仕方について
- ・食事前の待機混雑による危険の解消と手指消毒徹底のための前室設置
- ・テーブルや椅子の強度行動障害への対応

3) 浴室

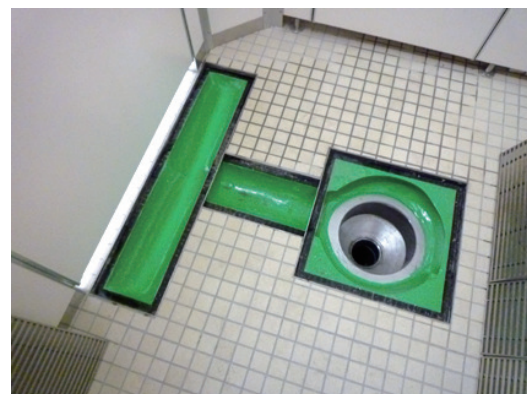
- ・床材の選定
- ・機械浴とリフト対応

3) 個別対応

- ・盗食、視覚制御、突発的な行動等に対するして利用者毎に個別対応を考えた個室ブースの提案
- ・作業ブース



流水実験（流水後）



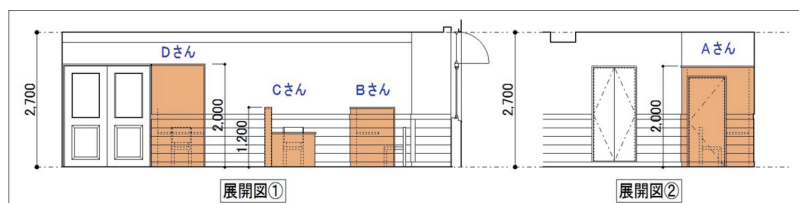
失便処理装置



ポータブル水洗トイレ

	特徴	個室ブース・間仕切り 検討結果
A さん	・突発的な行動をとる。 ・個別ブースを乗り越える。 ・現在小窓があるが視界を遮る必要がある。	→4 周壁で囲われた扉付き 個別ブースが必要。 →高い壁が必要。間仕切り H2,000 とする。 →小窓取り止め。
B さん	・人との接触が苦手。 ・人に見られる事を非常に気にする。 ・人の目線が苦手である。 ・手元は見えなくても良いが、スタッフからみて食事の雰囲気分かるようにしたい。	→個別ブースが必要。 →コーナーに座ってもらう。 →視線を遮る間仕切りを設ける。 →間仕切り H 1,200 とする。
C さん	・水に非常な執着をもっており行動を抑制していなければ厨房までヤカンを取りに行く。盗食も行う。 ・閉じた空間に入ると自傷行為を行う事がある。みんなが見える方が良い。 ・ブースと言うより自分の場所が分かるようにする形で良い。間仕切りはしるしとして考えている。	→テーブル付き椅子とする。 →テーブル前はオープンとする。 →サイドに間仕切りを設け H 1,200 程度とする。
D さん	・他者へのアピールが強い。周りの利用者へ影響がでる。現在カーテンの間仕切りを利用。 ・見たい欲求が強い。見えすぎると不安定になる。覗いて見える程度の間仕切りが良い。完全に囲うと逆にしようとする。 ・完全な壁はストレスとなる。	→個別ブースが必要。 →4 周を壁とせず、1 方は空け 3 方を囲う。 →間仕切り H 2,000、上部はオープンとする。

個別ブースの検討結果



個別ブースの展開図



作業ブース

知的障害者の在宅生活

ゆう建築設計は、在宅生活をされている方の暮らしにも目を向けていきます。施設づくりの中では、「すまいのように」と合言葉のように言われます。それは、施設的なものをなくして、家庭的な住宅に近づけようという意味でつかわれます。個人に合わせたきめ細やかなケアを提供し、空間もそれに合わせてスケールダウンしようということです。

これは、高齢者に関して言えば私たちの身近にいますし、老いがどのように進むのか、その中でどのような暮らしを望むのかまだ想像しやすいところがあります。しかし、知的障害をもつ方となると、どのようなすまいでどのように暮らしているのか、中々具体的に想像しにくい所があります。

そこで、実際に地域でご本人やご家族が障害とどのように付き合って「すまい」で暮らしているのかを見せて頂き、そこから建築で提案できることを考えます。また、それぞれの障害と関わり暮らす中で試行錯誤の末に生まれた工夫があれば了解を得た上で広めることで似たような障害を抱える方のお手伝いができればとも考えています。

すべての知的障害の特性を満足する、ひとつの「すまい」を提案することは不可能に近いことかもしれません。ですが、一つ一つの具体的な障害に即して建築の可能性を突き詰めて行くことで、障害の状況に応じたきめ細かい建築的提案の組合せが可能になっていくと考えます。そういった可能性を探っていく試みの一つとしてお話します。

